

トップに聞く

2007年度の振り返りと中期経営計画『FORWARD(フォワード) 08』の総仕上げに向けた取り組みについて、代表執行役社長の太田 義勝がご報告します。

株主の皆さまには、日頃から格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

2007年度(2007年4月1日から2008年3月31日まで)は、情報機器事業やオプト事業など成長分野を重点強化する「ジャンルトップ戦略」が奏功し、連結売上高1兆715億円(前期比4.3%増)、営業利益1,196億円(同15.0%増)、経常利益1,042億円(同6.2%増)、当期純利益688億円(同5.1%減)となり、営業利益は3期連続、経常利益は4期連続で増益を更新し、いずれも過去最高益を達成しました。

「ジャンルトップ戦略を強力に推進し、
営業利益・経常利益で過去最高益を更新しました」

コニカミノルタホールディングス株式会社
代表執行役社長

太田 義勝

Q1 2007年度はどのような1年でしたか？

「グループの成長を図るため、ジャンルトップ戦略に一層注力しました」

中期経営計画『FORWARD 08』の方針に基づき、成長の見込まれる事業領域や市場に経営資源を集中させ、そのなかでトップポジションを確立していく「ジャンルトップ戦略」をグループの総力を挙げて推進してきました。

主な事業の業績をご説明しますと、中核事業である情報機器事業では、一般オフィス向けに、中低速から高速のカラーMFP(デジタル複合機)の新製品5機種を投入し、国内外でのシェア拡大に努めました。これら新製品の販売は好調

に推移し、欧米市場ではトップグループの地位を得ています。また、大企業やデジタル商業印刷向けのプロダクションプリントの分野でも高速カラーMFPの新製品を投入し、販売拡大に努めました。さらに、グローバル戦略の一環として、欧州の有力情報機器メーカーとの業務提携に基本合意するなど、この分野の強化を行いました。

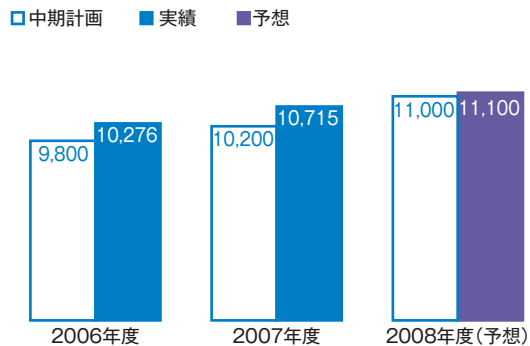
戦略事業のオプト事業は、TACフィルム(液晶偏光板用保護フィルム)を主製品とするディスプレイ部材分野では、大型液晶テレビ向けの需要拡大のタイミングを捉え、当初計画を前倒しして建設を進めた第5工場(兵庫県神戸市)を2007年11月から稼働させ、生産能力を増強しました。これによって、高機能TACフィルム(視野角拡大フィルム)を中心に販売数量を大きく伸ばしました。メモリー分野では、当社が圧

倒的な市場ポジションを有するブルーレイディスク方式に対応する次世代DVD用光ピックアップレンズの量産出荷が本格化しました。また、パソコンなどに搭載するガラス製ハードディスク基板についても需要拡大に対応して、2008年2月にマレーシア新工場が稼働しました。

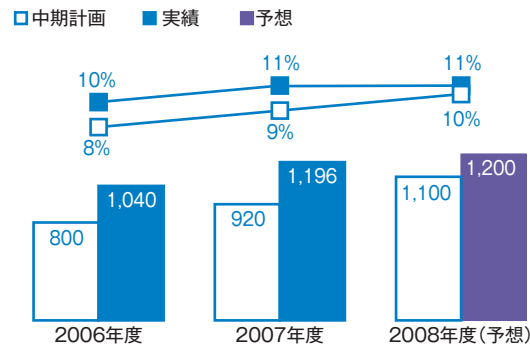
メディカル&グラフィック事業では、医療や印刷の現場で進むデジタル化に対応し、高精細・高品位な画像品質を提供するデジタル入出力機器の販売拡大に取り組みました。

これらの結果、売上高・営業利益・経常利益は好調に推移し、営業利益は3期連続、経常利益は4期連続で増益を更新し、いずれも過去最高益となりました。当期純利益は減益となりましたが、減損損失の計上などの特殊要因によるもので、業績そのものは順調に進展しているといえます。

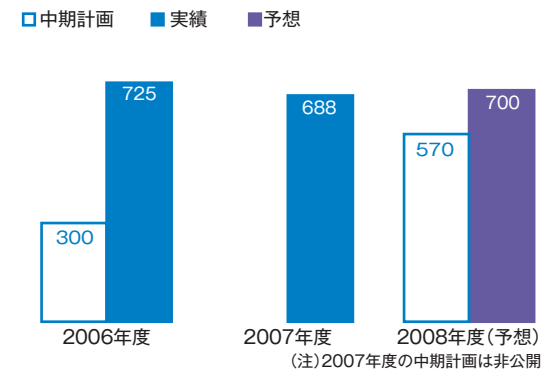
連結売上高(億円)



連結営業利益(億円)および営業利益率(%)



連結当期純利益(億円)



Q2 2008年度は中期経営計画『FORWARD 08』の最終年度となりますが、総仕上げとしての取り組みをお聞かせください。

「『FORWARD 08』を完遂するとともに、さらなる成長に向けグループ総力を挙げて取り組みます」

2007年度の連結業績については、『FORWARD 08』の方針に沿って取り組んだ結果、売上高・営業利益とも本計画で策定した目標を大きく上回りました。利益面では、『FORWARD 08』最終年度の数値目標を1年前倒しして達成し、計画は順調に進んでいます。

事業面でも、欧米市場におけるカラーMFPのジャンルトップの確立や、プロダクションプリント事業の拡大、新製品を投入した大型液晶テレビ向けの高機能TACフィルムや他社に先駆

けたブルーレイディスク方式に対応する次世代DVD用光ピックアップレンズの立ち上げなど、本計画の成長戦略に沿って取り組んできた成果は着実に実績として現れています。

『FORWARD 08』の最終年となる2008年度は、事業分野ごとに策定した具体的なアクションプランを実行することで計画を確実に達成し、次代でのさらなる成長に向けてグループ総力を結集して取り組んでいきます。

2007年度 事業別の動き

情報機器事業



売上高	営業利益
7,009億円	900億円
前期比	前期比
6.4%増	12.6%増

ジャンルトップ戦略の推進により、売上高は前期比6.4%増収、営業利益も12.6%増益。

[MFP分野]

- カラーMFP:「bizhub (ビズハブ)」シリーズ5機種を投入し、一般オフィス向けに低速～高速すべての領域で品揃えを強化。欧米市場においてトップグループのポジションを堅持。
- プロダクションプリント:高速カラーMFP「bizhub PRO (ビズハブプロ) C5500」の投入でラインアップを拡充するとともに、専任の直販組織や有力ディーラーとの協業などにより販売拡大。

[プリンタ分野]

- 一般オフィス向けの販売強化に向け、主力市場である欧米においてプリンタ販売会社をMFP販売会社に再編統合し、販売体制を整備。中高速タンデムカラープリンタやカラーレーザー複合機などの高付加価値製品を投入し、品揃えを充実。

オプト事業



売上高	営業利益
1,822億円	312億円
前期比	前期比
31.2%増	48.8%増

競争力ある新製品の開発と生産能力増強に注力。売上高は前期比31.2%増収、営業利益も48.8%増益。

[ディスプレイ部材分野]

- TACフィルム:市場に投入した高機能TACフィルムが国内外で大幅にシェア拡大。生産能力増強の効果も加わり、販売は大きく伸長。

[メモリー分野]

- 光ピックアップレンズ:次世代DVD製品の本格的な立ち上げに伴い、販売は好調に推移。
- ガラス製ハードディスク基板:夏以降は需要が回復するとともに、垂直磁気記録方式への対応が高く評価。販売は好調に推移。

[画像入出力コンポーネント分野]

- カメラ付携帯電話用マイクロカメラやデジタルカメラ用ズームレンズが出荷量を大きく伸ばし、売上拡大に貢献。

Q3

順調に業績は推移していますが、新しい利益配分に関する方針はどのようになっていますか？

「連結配当性向25%以上を中長期的な目標とします」

事業付加価値を増大させ、成長と企業価値の最大化を目指すとともに、株主の皆さまへの利益還元を高めていくことが重要と考え、

2008年度より利益配分に関する新しい方針を定めました。

連結業績および成長分野への戦略投資の推進などを総合的に勘案しつつ、株主の皆さまへ継続的に利益還元することを基本といたします。具体的には、連結配当性向25%以上を中長期的な目標とします。

2007年度の期末配当につきましては中間期に予定しました通り、1株当たり7円50銭の配当を実施させていただきます。中間と

期末を合わせた年間配当金は1株につき15円となり、前期比5円の増配とすることで、株主の皆さまの日頃のご支援にお応えしたいと思います。

これからも、引き続き当社へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

メディカル&グラフィック事業



売上高 1,611 億円 営業利益 77 億円

前期比 1.5%増 前期比 12.4%減

デジタル機器の販売に注力し、売上高は1.5%増。営業利益はフィルム原材料の銀価格高騰、研究開発費の増加により12.4%減益。

【医療・ヘルスケア分野】

- 小型かつシンプルな操作環境を提供するデジタル入出力機器と周辺端末システムを開発し、大規模病院に加えて診療所などの小規模医療施設に販売領域を拡大。

【印刷分野】

- 当社の独自技術を搭載した高品質なオンデマンド印刷機を中心に、デジタル機器を国内外で本格展開。

計測機器事業

分光放射輝度計、分光測色計、三次元デジタイザの新製品を市場化し、商品競争力を強化。売上高は前期並み、営業利益は26.2%減益。

売上高 99 億円 営業利益 12 億円

産業用インクジェット事業

国内市場向けに当社の独自技術を活かしたインク販売が増加するとともに海外市場の新規開拓に積極的に取り組み、売上高は前期比15.4%増収。営業利益は31.8%減益。

売上高 69 億円 営業利益 8 億円